

ノ睫反射ハ左側ニ於テ亢進スルカ加シ、知覺ヲ檢スルニ異常ナク又胸腹異常ナシ由テ雲頭麻痺ト診斷シ鼻素加里、沃度加里、亞砒酸ヲ試用シ然テ電氣療法ヲ施セシモ患者七週日ヲ經スシテ事故歸國セシヲ以テ充分ノ

◎輓近ノ肺結核療法ニ就テ

會員 岸 千尋

結核病ノ險惡ナルヲ固ヨリ辨テ俟タス近時ノ統計ニ由

レハ殆ント人口ノ七分ノ一ハ本病ノ斃サル處トナル就中肺結核最モ多ク最モ厭フヘシ、故ニ古來ヨリ諸大家孜孜其治法ヲ求メテ止マス殆ント諸藥ヲ用ヒ盡シテ常又餘劑ナキカ如シ夫レ然リ肺結核ノ治療ハ實ニ多端ニ

調節デ且ツ難シ爰ニ余ハ一々之レヲ牧擧スルニ迫アラズ又敢テ必治ノ療法アリト云ハス只輓近一般最モ信用スヘキ合理的療法 Rational Therapie ノ一班ヲ述フルニ過キス幸ニ諒焉

千八百八十三年コッホ Robert Koch 氏結核「バチルス」

發明以來其傳染病タルヲ判然セシヲ以テ頗ル治療上ニ一定ノ方針ヲ與エ爾後治療ノ目的靡然殺菌ニ傾キタリ現今ニ於ケル其目的ヲ總括スレハ實ニ左項ヲ出テス

- (一) 結核菌ノ人体中ニ轉移スルヲ防ク
- (二) 既ニ体中ニ入リタル結核菌ヲ無害トナス
- (三) ハ諸般ノ預防ヲ包括ス之レヲ約言スレハ(a)虛弱ナ

ル殊ニ結核性父母ノ小兒ニハ強健ナル乳母ヲ撰シテ授乳セシムルヲ(b)生牛乳ヲ與フルトハ少ナクトモ五分間ハ熱沸シテ殺菌性トシテ與フルヲ(c)腺病ヲ勉メテ治療スルヲ(d)虛弱ナル、体格不良ナル小兒ニハ休働ヲ勉メシメ冷水浴等ヲ命シ皮膚ノ強硬ヲ計リ滋養易化食物ヲ與エ空氣新鮮ナル室内ニ起居セシムルヲ(e)終リニ結核疹中ノ結核菌ヲ撲殺スルヲ最モ必用トス此目的トシテハ四%ノ石炭酸水ヲ少ナクトモ半量ヲ充テタル唾壺ニ略痰セシムルヲFischer及キルSchill氏ハ五%ノ石炭酸水ハ二十四時間ニシテ結核菌ヲ撲殺スルヲ檢定セリ其他衣衾臥床等ハ一定ノ消毒器(熱蒸氣消毒器等)ヲ設ケテ消毒シ或ハ單ニ煮沸ス然ラスシテ若シ此等ニ附着セル略痰乾燥スルハ結核菌ハ六ヶ月間生活スルヲ得而シテ方今此等ノ方法ヲ周到實行スルノ醫境果シテアリヤ思フニ略痰ノ防衛未タ普及セス!

(二)ノ目的トスル處一部ハ結核ニ對スル組織ノ抵抗力ヲ高メ若シハ結核ノ吸収ヲ催シ一部ハ結核菌ヲ撲殺スルニアリ

第一ノ目的トシテハ氣候療法及易化滋食物ヲ措テ他ニ求ムヘキナシ之レヲハ現今行フ處ノ肺結核療法中最モ有効ノ手段タルヲ信ス、氣候ノ急變セサル高燥ナル地方ニ轉地セシムルノ最モ有効ナルハ己ニ古來ヨリ經驗スル處ナリ且ツ身體ノ營養ハ常ニ怠ルヘカラス貧者ノ肺結核治癒(少ナクトモ病勢停止)ノ難キハ職トシテ其不足ニ由ラスンハアラス從テ消化力如何ニ注意シ苟モ健胃療法ヲ怠ルヘカラス而シテ肺結核患者ノ多クハ胃酸ニ乏シキ場合多シ(之レヲ確定スルニハ胃液試驗ヲ要スレハ臨床上屢々患者ノ嫌忌ヲ來ス)然ル場合ニ於テハ鹽酸ヲ投スルヲ最モ適當トス予ハ左ノ處方ヲ慣用ス

處方

稀鹽酸

十五乃至二十滴

苦味丁幾

一、〇乃至二、〇

蒸水

一〇〇、〇乃至一二〇、〇

右一日三回每食後分服

又之レニ一、〇ノ「ペプシチ」ヲ和スルモ佳ナリ

消化器健全ナル結核ノ初期若クハ停止期ノ患者ニハ肝油ヲ與フ（一日三〇、〇—五〇、〇）腸胃症アル時ハ一時休止ス之レ古來ヨリ皮膚脂肪過少ノ腺病及肺結核ニ經用ス

第二ノ目的トシテ沃度及沃度加里ハ古來ヨリ結核性病ニ用フル處ナリ殊ニルゴール氏ハ精密ニ調査セ腺病患者千百六十九人中全治セシ者一百三十九人著シク輕快セシ者一百三十八ナリト又モレチーMoretti氏ハ千八百五十九年ニ説クナシテ曰ク腺病及結核ヲ治療スルニハ沃度劑ヲ措テ他ニ貢藥ナシト又結核病理家トシテ有名

ナルレンチックLennee氏ハ毎日一日一、〇乃至二、〇ノ沃度加里ヲ結核ニ稱用セリ然レテ現今沃度劑ハ多クハ腺病即チ腺ヲ侵ス結核ニ常用スレテ肺勞ニ用フルモノ少ナシ且ツ多クハ効ナキカ如シ

ベルトンBarton氏ハ沃度ノ吸入ヲ稱用ス

コッホ氏ハ沃度丁幾ヲ患部ニ注射シテ患部ニ一時炎勢ヲ強劇シテ癰痕ヲ形成セシヲ企テクリ

殺菌ノ目的トシテコッホ氏ハ石炭酸水ヲ患部ニ注射セリ其他ハ石炭酸、イモール、水楊酸、硼酸水等ヲ防腐液吸入ハ一般ニ試用スル處ナリ

熱氣療法——一定ノ裝置アリ（Consumption and its cure.

By Dr. Louis Weigart, 1889）——ハ僅少ナル熱度ノ上昇タリトモ著シク結核（バチルス）ノ發育及繁殖ヲ防ク例之攝氏三能ハ十八度五分ノ熱度ニ於テハ殆ント成長スルヲス四十二度ニ至レハ其發育全ク停止スト云フノ經驗ニ

基ノ濕性蒸氣吸入 (Halter, 1887) 之ノ亦呼氣四十一度ニ達スルニ至レハ「バナルス」枯死スト云フノ經驗ニ基テ又同理ニ基キテ乾性高熱蒸氣吸入 (A. Gatsien in Berlin) ナ用フ此等ノ吸入ハ未タ充分吾人ノ經驗ヲ遂ケサルモ恐クハ諸吸入法中最モ佳良ナラン

内服藥トシテ數年來專ラ廣ク行ハル、藥品ハ亞砒酸及結麗亞曹篤トナス

亞砒酸、之レ醱酵ニ因スル腐敗ヲ防クノ力アリ殊ニ酵母Hefeヲ久時亞砒酸ト觸接スルハ醱酵力ヲ失フト云フ又普通ノ説ニ由レハ久時亞砒酸ヲ連用スルハ人獸ヲ問ハス其營養善良トナリ身体ノ健全ヲ致シ筋肉増加シ勞力ニ堪エ易カラシムト云エリ然レモ予ハ未タ細菌ニ對スル精密ナル試験ヲ逐ケスシテ聞カス

亞砒酸ヲ初メテ肺結核ニ稱用セシハ Buchner 氏ニシテ近時又廣ク稱用セラル、ニ至レリ「アイホルスト」氏ハ

(Eichhorst, speci. Patho. u. Therapie) 記セリ即チ肺結核初期ニ之ヲ用ユルハ著効ヲ見ハシ食欲亢進シ体重増加シ熱發止ニ脱汗減少シ既ニ空洞アルモノニ於テモ快方ノ効アリ然シテ氣道ニ粘痰貯留スルハ結麗亞曹篤ヲ互シテ用スルヲ良シトス

處方 結麗亞曹篤 ○、四 亞砒酸 ○、〇四

甘艸末及ニ適宜 爲ニ二十九粒桂皮末ヲ以テ衣ハナシ一日三回毎食後一丸宛

又方 亞砒酸 ○、一 枯椒末 一、〇

甘艸及末 適宜 爲百丸 (一丸中〇、〇〇一) 一日三回毎食後二乃至五丸宛

但シ本丸ヲ用ユルニハ腸胃症ニ注意シツ、先ツ五日乃至十日間一日六丸宛ヲ與エ次テ五日毎ニ一粒ヲ増シ遂ニ一日十五丸ニ達シ同量ヲ五日乃至十日間持長スルノ後又五日毎ニ一粒

ヲ減シ終ニ一日六粒ニ復シテ止ムヲ良シトス

又方 亞砒酸 〇、一 還元鐵 二、〇

健質亞那^の 適宜

一爲百丸一日三回每食後二九乃至三九宛

結麗亞曹達、之レ近來最モ廣ク用ヒラル、モノ、如シ

フレンチエル Frankel 氏ハ久シク之ヲ用ヒ之ニ由テ咳

痰容易トナリ痰中ノ結核ハチルス減少スト云フクツト

マン Gutman 氏ハ十八種ノ病原及非病原菌營養基ニ就

キテ試験セシニ防腐力遙カニ石炭酸ニ優レリ（防腐力

結麗亞曹達一ト一〇〇ノ液ハ石炭酸一ト二五ノ液ニ同

シ）四十分ノ一ヲ含ム營養基ニハ「ハチルス」成長繁殖

頗ル寡少ナリ二千分ノ一ノモノニ於テモ其發生ヲ防遏

ス然レ其大量例之一日〇、六結核ハ（一日極量〇、五一

回ノ極量〇、一）ヲ取ルモ組織中ニ存スル結核バチルノ

繁殖ヲ防遏スルニ足ルヘキ濃厚ヲ致スニ足ラス然レ其

同氏ハ少量ニテモ幾分カ其發生防キ得ルヲ以テ此療法
ヲ賛成セリ

處方 結麗亞曹達 マントール 各〇、〇二五

黃蠟甘艸根末 各適宜

一日三回每食後二九宛

又方 結麗亞曹達 一、〇 白蠟アルタ根末

ゴム末 各適宜 分テ百丸トナス

一日三回每食後四九乃至十丸ヲ投フ

（腸胃症ニ注意スヘシ）

又方（咳嗽及下利アル時）

結麗亞曹達 一、〇 鉛糖阿片各 〇、三

甘艸熬 六、〇 コム漿 適宜

爲五十丸 三九乃至五九（〇、一）宛

一日三回每食後分服

又結麗亞曹達ヲ肝油ニ和シテ與フルモ可ナリ

臨床上ノ經驗ニ由レハ結麗亞曹篤ハ加多兒症著明ナル
 場合ニ適シ亞砒酸ハ未タ理學的診徴ヲ見ハサル所謂
 結核素質家及結核停止期若クハ加答兒徵著シカラサル
 モノニ適シ消化不其アル片ハ之レヲ稀鹽酸劑ヲ兼用ユ
 ル片ハ更ニ適當ナルカ如ク且ツ最モ簡便ナル療法タリ
 勿論此等治療ノ經過中痰痰劑臨時鎮咳劑與奮劑等ノ必
 用往來セサルハナシ殊ニ結核症ノ末期ニ於テハ最早對
 照療法ニ委スルノ外策ノ施スヘキナシ然レモ斯ハ爰ニ
 贅セス

完

會員

()
 ハ 一
 (二)抑モ會員ハ本會ヲ組織スルノ原素タリ然ルニ規則
 四條ニハ如何ナル明文アル?入會者ノ範圍狹隘ナ
 ナキヤ會員ノ分類不明ナルナキヤ蛇足ノ文字ハナ
 ヤ ス ラ ン ハ ヲ ス ル ナ マ サ ル リ

述ヘン
 ナ總約シ
 行スト何
 言ヲ示ス
 條ニ述フ